



熊谷市立市田小学校

森 洋子

一 本校の沿革

本校は、明治六年六月。大里郡小泉村字前方「常永寺」を校舎として小泉学校を開校しました。令和四年 空一杯に風船を放ち、一五〇周年記念祝賀行事を実施。子供達・保護者・地域と一緒にお祝いをしました。

長い歴史に支えられた本校は、市田村・吉見村の合併や大里村へと改名を経て、昭和五〇年後半には児童数七〇〇名を超え、今の大きな校舎と共に発展してきました。現在、児童数は減少しましたが、伝統あるこの学び舎で、活力ある教職員と共に、子供達に「自律の力」と「将来の夢」を育みます。そして未来に向かって自分の力で、歩みを進められる子供達の育成を目指し、地域と共に歩んでいきます。

二 校章・校歌制定に係るエピソード

1 校章

- ① 昭和四十四年制定
- ② 桜の花びらの模様。そして、桜の花びらに囲まれるようにして、「市田」の文字が入っています。できた当時の文書は残っていませんが桜の花は日本を象徴する花。その中で立派な学校として栄えるように、そして、子供達一人一人が将来、満開の桜の花を咲かせることができるように、という願いを込めて作られたという事です。



2 校歌

- ① 昭和四十四年制定
- ② 山並みや荒川の雄大さを讃える歌詞から始まり、本校が目指す子供達の姿「生き生き学び・力一杯活動し・誰とでも仲良く」を支える「育つ力」「希望の市田」の歌詞。この言葉がリズムに乗って子供たちの心に届くようにとの思いが込められた歌となっています。

校歌

宮沢章二 作詞
 小山章三 作曲

あかるく いきいきと (♩ = 88~92)

1. ちぶやまなみる ひはみちて ひかりあふれと おおみのより
 2. みずをあつめ のひらかわゆき あしすを つくさう もねると
 3. かおるおしえの のあみちをゆき あすを つくさう もねると

もちとてをはととーりのののいたまてはた
 はなとのぼことうーのそいらたか

そだつちからも つちわくきほうのいちだわかまーなひや
 びうたのひはなるよこよらかきほののいちだわかまーなひや
 うたえはりよこよらかきほののいちだわかまーなひや

校歌
 宮沢章二詩
 小山章三曲

秋父山のみ日は満ちて
 光あふれる大里よ
 及と手をとり
 野に立ちほ
 青つ力も土にわく
 希望の市田
 わが学びや
 水をあつめ荒川の
 岸のふるさと稲実り
 父と母との愛もまた
 胸の火となら清らかに
 希望の市田
 わが学びや
 ぬぶる教の道き
 明日を待ち
 もろとくもに
 花の母娘の空高く
 歌をひたりよここの心
 希望の市田
 わが学びや
 昭和四年三月 章三